自然災害科学 *J. JSNDS* 特別号 *1-1*（*2002*）

初心を忘れずに

石原　安雄

学会設立 20 周年，祝福すべきこととご同慶の至りである。設立当時のことを思い出すと感慨無量である。

昭和 34 年（1959）の伊勢湾台風がきっかけとなって，全国的に自然災害に関係する諸学の研究者多数が積極的に協力して，共同研究が盛んに行なわれるようになった。そして昭和 35 年（1960）に，大学における自然災害研究を有機的に推進するための研究連絡と総合的研究推進の組織体として，災害科学総合研究班が結成された。当時の文部省も，災害防除という強い社会的要望もあって，科学研究費補助制度の中の特に推進すべき分野の一つとして自然災害の研究をとりあげて，その後約 25 年にわたってその活動を積極的に支援した。

このような環境にあって昭和 40 年代の半ばごろ，こうした活動を支える背景として，学会の存在が重要であると考えて学会設立が提案されたが賛同が得られなかった。それは，既存の諸学会があって，そこに学問的基礎をおいて自然災害の研究に参集すればよいという風潮があったためと考えられる。

その後，境界領域科学である自然災害の研究の推進にはそれを統括する独自の学問理念の確立が重要であることが認識されるようになり，昭和 56 年 3 月 27 日（1981）に名古屋で発会式が行なわれて，学会の名称を日本自然災害科学会とし，現在の会則にある目的と事業 7 項目を決定した。その後，学問理念の確立とともに，その理念に基づく研究成果から導かれる防災・減災の方策も重要であることから，昭和 61 年（1986）に名称を日本自然災害学会と改め，多くの研究者の結集を図ることとして，今日に至っているのである。

このような学会発足の経緯とその後の発展過程をみるにつけ，学会は安定して運営されており，喜ばしいことである。しかし，複雑多岐にわたる自然災害現象に対して，未だ根本的に関連の専門学問それぞれの見地に立ってそれぞれの学問理念に基づいて研究を進めていることはないだろうか。本学会では，自然災害の研究は独自の学問体系をもつ自然災害科学としての学問理念に基づいて行なうべきであるとしているのである。初心忘るべからずで，一日も早く自然災害科学としての学問体系が確立されることを願っている次第である。